

本研究の課題

宇都宮大学と塩谷広域行政組合の共同研究チームは、平成16年度、「広域行政地域における循環型社会形成と市民参加の在り方に関する共同研究」という研究題目で共同研究を推進してきた。本共同研究の狙いは大きくは次の諸点にある。

第一は、塩谷広域行政組合参加の地域（1市4町）が目指す循環型社会形成に向けた全体的計画のアウトラインを描くことである。

第二は、今回この問題が大きな位置を占めるが、現在の環境施設（中間処理施設）設置以前から当該地域の市民と行政との間で、環境施設をめぐる生じていた紛争に終止符を打つための、紛争回避のための市民参加型モデルの構築である。

第三は、中長期視点から見ても、循環型社会形成にとって大きな意味を持つが、短期的に見ても緊急の課題である環境施設（中間処理施設）建設の適地選定的方法的提起の問題である。

本共同研究チームは、上記研究課題について十分検討し尽くしたわけではないが、時間制約の中でそれなりの成果をあげたのではないかと確信している。本共同研究を進めるにあたって、関連自治体、機関の皆様方に多大なご協力とご教授をいただいた。この誌面をお借りして厚くお礼を申し上げたい。

本共同研究を推進した研究スタッフは以下の通りである。

平成17年3月31日

宇都宮大学

国際学部教授北島滋

国際学部教授中村祐司

農学部教授酒井豊三郎

工学部教授今泉繁良

教育学部助教授陣内雄次

塩谷広域行政組合

塩谷広域行政組合事務局長鈴木斌

塩谷広域行政組合管理課長黒須敏文

塩谷広域行政組合管理課主幹阿久津昇

塩谷広域行政組合次期ごみ処理施設整備担当
係長鈴木幸典

塩谷広域行政組合次期ごみ処理施設整備担当
主査印南実